

## 道外研修(宮城県)4日目

報告者：1年F組 村椿彩華 & 小川恵璃

### ● 南三陸町視察

南三陸ホテル観洋の取り組みである「震災を風化させないための語り部バス」に乗り、ガイドの伊藤さんの話を聞きながら、南三陸町の現状を学びました。ここでは、まず高野会館をバスから見ました。震災の時、チリ津波を経験した先人が、マニュアルにとらわれず、屋上に逃げるという判断で327名と犬2匹助かったのです。高野会館には、実際の津波の高さの表示があり、三階のところまで津波が来ていたことに驚き、とても怖くなりました。高野会館の正反対には、防災対策庁舎があります。防災対策庁舎は、サビないように補強されていましたが、そのまわりには何もありませんでした。鉄骨が丸出して、恐ろしかったです。

「南三陸さんさん商店街」では、ご当地のものが数多く並んでいました。この商店街は、2012年に仮設の商店街として始まり、2017年に本設商店街として移行されたものです。この地区では1960年に起きたチリ地震で、多くの被害を受けました。そこから、チリと深めた友好をきっかけに、イースター島からモアイ像が贈られました。イースター島からモアイ像が贈られるのは世界初で、商店街にあるモアイ像には目が入っています。目が入っているモアイ像は、世界に二体しかないそうで、とても希少だそうです。



図1 防災対策庁舎



図2 高野会館



図3 南三陸さんさん商店街

### ● コクガン

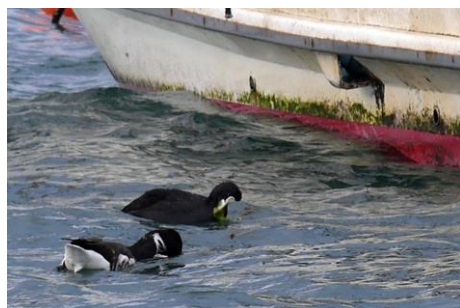


図4 志津川湾のコクガン

コクガンの重要な越冬地である志津川湾で、コクガンを観察しました。オオバンも見られました。コクガンは世界に55万羽ほど生息しており、毎年、志津川湾で200～300羽ほど越冬します。志津川湾は、コクガンやオオバンが、とても身近に感じられる興味深い場所でした。コクガンが、オオバンの餌を奪って食べる姿を見たり、かわいらしい姿も見られました。湾の周りには、カモメも多数いて、多くの生物に触れ合うことができました。

## ● 戸倉公民館

まず南三陸町自然環境活用センター（戸倉公民館）に着いたとき、時計が震災時、津波到来の時刻、「14時48分」で止まっていました。津波が襲った場所で、つい最近まで仮設住宅があったと聞き、とても驚きました。戸倉公民館には、震災前にはかなりの研究資料や生物標本がありましたが、震災の影響でほぼ失われました。その後も、活動拠点を転々としながら、資料集めをし、2020年1月、ようやく戸倉公民館の二階で復旧を果たしました。私たちが行ったときは、まだ、標本などの運搬が行われている最中で、まだまだすっからかんでした。な、な、なんと私たちが初の利用客でした！

近年、志津川湾では、磯焼けが問題になっており、その影響で水温の上昇や透明度の低下、栄養塩の低下、植食動物の増加を引き起こし、海藻が死滅したり、ウニが大量発生するなどの影響が出ています。それを解消するために、現在、藻場の再生活動を行っていました。志津川湾と戸倉公民館は、地元のテレビに取り上げられており、標本もたくさんあって、面白かったです。皆さんにもぜひ訪れてほしいです。



図5 戸倉公民館の時計

## ● 大川小学校 献花

大川小学校は、全校児童108人の7割にあたる74人が亡くなった小学校です。この大震災のとき、学校管理下で子供たちがなくなったのは、大川小学校だけでした。校舎の敷地内に入った時から、空気が変わるのを感じました。ここでは裏山に逃げれば助かったというわけですが、校庭に残るか、裏山へ逃げるか、という選択で対立したそうです。対立したことで避難が開始されたのは、地震が発生してから40分以上も後で、津波が来る1分前だったそうです。もっと早く避難を開始して、裏山に逃げていれば、全員助かったのに、裏山とは真逆の、川の堤防の小高い所に逃げようとしたことで、今回のような事故が起きました。その選択をするためには、悪天候や、子供や高齢者が大勢ということなど、様々なことを考慮して、この選択をしなければならなかったそうです。こういう時に、臨機応変に対応できる力が、必要なのだと思いました。そして、先生方が言うように、想定外というものは、こういうものなのかということがわかりました。大川小学校は、窓ガラスが全部割れていて、建物の中が筒抜けで、津波の大きさが感じられました。また、小学校の渡り廊下が、津波の被害で建物から離されて、横倒しになっていたのも印象でした。裏山にも、津波の高さを示す印があって、とても高いところまで、津波が来ていたことに驚きました。全国の学校には、今後このようなことがないよう、しっかりと防災対策を行い、避難に備えてほしいと思いました。



図6 大川小学校

## ● 多賀城市内散策

4日目の夕食時間は自由でした。そこで、宮城県名物の「牛タン」や「牡蠣」を食べました。宮城県の人々は、とてもやさしく、親切に私たちに接してくださいました。東北名物の食べ物などにも触れ合えたので、とても楽しかったし、よかったです。この四日間で、東北について、いろんなことを知ることができました。また、現地の高校生と触れ合うことができ、とても実りある研修になりました。もしも、このような研修に参加したいと思っている滝高生がいたら、ぜひ積極的に参加してほしいです。



図7 利久の牛タン